

第6学年 国語科学習指導案

兵庫教育大学附属小学校
阿賀 研介

1. 単元名「6年2組へのメッセージ～温暖化対策で自分たちにできること～」

(「大切にしたい言葉」光村図書6年)

2. 単元の目標

- ・話や文章の構成や展開について理解する。(知識・技能)
- ・目的や意図に応じて簡単に書いたり、詳しく書いたりして、自分の考えが伝わるように書く。(思・判・表)
- ・思いや考えを伝えようとする。(主体的に取り組む態度)

3. 単元について

(1) 教材観

「大切にしたい言葉」は、自分が大事にしたい言葉を決め、その理由を経験と結び付けて構成を工夫して書く教材である。自分の伝えたいことを伝えるために、どの経験を選ぶかが大切となる。本単元では大事にしたい言葉ではなく、「温暖化を止めるために自分たちにもできること」という意見とする。また経験ではなく、集めた情報と結び付けることとなるが、意見を伝えるために、どの情報を選ぶかということを考えることができるだろう。また、意見を伝えるために、どの構成で書くかという構成を学ぶこともできる教材である。

(2) 児童観

「書くこと」の前単元で、児童は「書くこと」において、給食の配膳表に今日のメニューの欄に一言を書くという学習を行い、情報を集めることができた。給食室の思いや、どのような工夫をしているのかをインタビューなどを行い、調べた。そうして集めた情報に関係づけたり、分類したりすることで、給食の魅力を伝えた。情報の収集・整理の力はつけてきている。

伝えたいことを明確にするために構成意識、そしてどの具体例を詳しく伝えるとより伝えたいことが伝わるかという区別する力をつけていくと、より自分たちの意見を伝えることができると考えている。

(3) 指導観

「温暖化をとめるためにクラスにできること」をグループで1つの意見文として記述する。そしてそれをプレゼンテーションで発表するという表現を単元後半に設定する。第1次では、自分たちの生活を振り返り、たくさんの電気を使っていることや、ゴミを出していることに気付かせる。それらが温暖化とつながることを知り、自分が特に興味をもったことや調べてみたいことをそれぞれのテーマとする。同じような関心のテーマの児童で意図的にグループを構成することで、意見文を書く時に調べたことを共有しやすくする。ここでは、明確な意見をもつことではなく、「調べたい」と思う児童の意欲の喚起を大切にしたい。

第2次では、本やインターネットなどの資料をもとに、それぞれのテーマについて調べていく。ここで大切にしたいのは2つである。1つ目は、調べる中で生まれたここが気になるなどという児童の関心をつなげていくことだ。「なんでそうなったのかな？(原因)」「じゃあどうしたら防げるのかな？(対策)」など疑問を調べ学習につなげていくために、十分な取材の時間の確保と、教師はサポートするという立場をとりたい。関心のあることを聞き、「ではこういうキーワードで取材してみたら？」などと、児童の関心に寄り添いどういった情報を得るとよいかをアドバイスをしたい。そうする中で、「温暖化をとめるために自分たちにできることは何か」という意見を持たせていきたい。

2つ目は、情報の可視化である。集めた情報を1つずつ付箋に書き、情報を分類する。その中で自

分たちがクラスに伝えたいことを伝えるためにどの情報を選ぶとよいのかを考える。付箋に書くことで、操作しやすくなり、情報の取捨選択がしやすくなると考えている。選ぶ情報が決まれば、教科書のモデル文をもとに、意見文の構成を考えていく。

第3次では、自分たちが書いた意見文をプレゼンテーションという形で、クラス全体に自分たちが考えたことを発表する。ここでは、取材をしたり、意見文を書いたりする中で生まれた危機感や、伝えたいという児童の思いを大切にしたい。プレゼンテーションありきではなく、子どもの伝えたいという思いを授業中の発言などから見とりプレゼンテーションへとつなげていきたい。プレゼンテーションでは、話し方や資料の示し方のモデルをできるだけたくさん示したい。その中で、今の自分ががんばろうと思うものをグループで一人ずつ選ばせる。自分で目標を立てることで、主体性につながりやすくする。そして、聞き手にもその目標を発表時に伝えることで、自分の目標に対してどうだったかという意見をもらったり、自分たちで振り返ったりする中で、前單元からの学びの高まりを実感できるようにしたい。

子どもたちは世の中のことに関心をもっている。教科書教材を通して、社会に子どもたちの学びを広げることで子どもたちの主体性を引き出していきたいと考えている。

○本学習で働かせる ESD の視点

【有限性】

地球の資源には限りがあることを知ることができる。

【相互性】

人間の営みが自然環境に影響を与えていることを理解することができる。

【責任性】

温暖化をとめるために自分たちにできることを考えることができる。

○本学習で育てたい ESD の資質・能力

【クリティカルシンキング】

温暖化を止めるために自分たちにできることを見つけることができる。

【協働的問題解決力】

テーマごとのグループで協力して最後まで取り組むことができる。

○本学習で変容を促す ESD の価値観

世代間の公正…どの世代の人も温暖化の悪化により、生活が制限されることなく、幸せに暮らすことができる。

○達成が期待される SDGs

- ・目標 13 気候変動：普段の生活の中で温暖化につながるものがあることを知り、防ぐために自分にできることを考えることができる。

5. 単元の指導計画（全 1 1 時間）

単元の指導計画	主な学習活動	学習への支援	評価備考
1	1 ○普段の暮らしと地球温暖化をつなげやすいように自分の生活の中でゴ	テーマは探しながら決めて変更してもよいことを伝える。	自分の暮らしに関わる

	<p>ミをだしているもの、電気を使っているものを書いていく。</p> <p>○主体的に調べることができるように「「ゴミ問題」「エコな発電」など自分の興味のあるテーマを選ぶ。</p> <p>2</p> <p>温暖化について具体的に行動をしている人のスピーチなどを聞き、感じたことを交流することで、温暖化への関心をもつ。</p> <p>○見通しをもって活動できるように単元のゴールと付ける力を理解する。</p> <p>「温暖化をとめるために自分たちができることをクラスで伝え合おう」</p>	<p>関心のある内容でグループを編成することで、伝えたいことが明確にしたり、資料を分担して集めやすくしたりする。</p> <p>自分も何かしようではなく、「このままでは大変なことになるかも」など、児童が思ったことを引き出し、温暖化について調べてみたいという意欲を醸成する。</p>	<p>ものを進んで見つけようとしている。(主)</p> <p>進んで思いや考えを伝えている。(主)</p>
2	<p>3・4・5</p> <p>○自分の思いや考えをもてるように決めたテーマで取材をする。</p> <p>6</p> <p>○伝えたいことを伝えるための情報が集まっているか確認するために、情報を付箋に整理し、意見文を書くための計画を立てる。</p> <p>7・8</p> <p>○伝えたいことが伝わるように、教科書のモデル文の構成を知り、序論・本論・結論で分担を決めて、グループで1つの意見文を書くためのアウトラインを決めて、グループで1つの意見文を書く。</p>	<p>問題になっていること、問題に対処するためにどんな取り組みがあるかなど、調べる視点の例を伝える。</p> <p>○同じ情報を整理し、カテゴリーに分ける。 (対策のこと、日本に起きる変化、食糧の問題のこと、水に関することなど)</p> <p>○付箋に整理することで偏っていないかなど、集めた情報を可視化できるようにする。</p> <p>○足りていない情報があれば再取材を促すなど、グループごとにそれぞれアドバイスをする。</p> <p>○構成は総括型・頭括型・尾括型から選ぶようにする。</p> <p>○意見文をもとにプレゼンテーションを行う。意見文やプレゼンテーションの際に、集めた情報の何を選ぶかを話し合う。 選ぶ基準は自分たちが伝えたい</p>	<p>必要な情報は何かを考えて、情報を集めている。(思・判・表)</p> <p>集めた情報を分類している。(思・判・表)</p> <p>分類した情報をもとに伝えたいことを考えている。(思・判・表)</p> <p>・意見文の3つの構成について理解している。(知・技)</p>

		ことが伝わるかどうかということを示す。	
3	<p>9・10</p> <p>○書いた意見文をもとにクラスで発表するために、プレゼンテーションの準備をする。</p> <p>11</p> <p>○クラスへのメッセージを伝えるためにプレゼンテーションを行い、目標としていることが達成できたかどうか確かめるために相互評価をする。</p>	<p>○話し方・資料の使い方・聞き手を引き付けるという観点で意識するとよいことを示し、各グループでそれぞれ何を意識するのか自分たちで決めるようにする。</p> <p>○他グループからの意見と自分たちの立てた目標を結びつけてふりけるようにする。</p>	<p>自分たちで見合うなどして、相手に伝えることを意識して練習している。(主)</p> <p>他グループからの意見をもとに自分たちの発表を振り返り、次につなげようとしている。(主)</p>